

講座「東京湾の科学」② (5/22, 6/11)

◎ この講座は、笹川平和財団海洋政策研究所の「海洋教育パイオニアスクールプログラム」により、ご支援を頂いております。

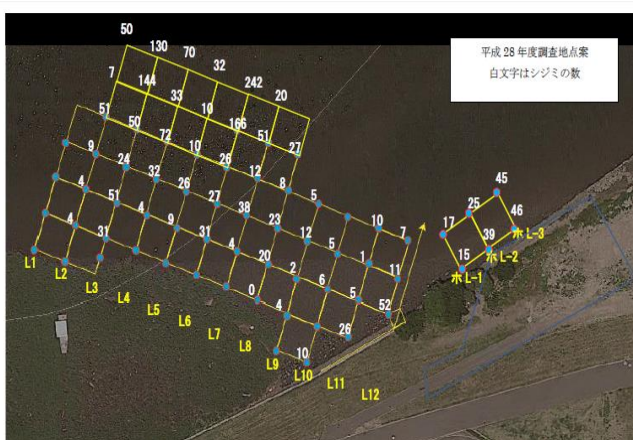
今回は、講座「東京湾の科学」の3回目と4回目の校外学習です。一つは、多摩川河口での生物調査、もう一つは、東京湾（特に浦安の）伝統的な漁業であるアサリ漁についてです。

＜校外学習「神奈川の海体験会」参加5/22＞

この校外学習は、やはり地元浦安市の市民団体である「浦安三番瀬を大切にする会」が行っている「東京湾の生き物のゆりかご『三番瀬』を学ぼう！PART2」のイベントに参加させて頂いたのですが、また更に、多摩川河口干潟の干潟学習会・生物調査（scop100）に参加するものでもあります。



ものすごいドロ干潟



碁盤目のように調査点が割り振られました

この河口は、ドロ干潟。生き物は、ほとんどがヤマトシジミで、ホトトギスガイやゴカイの仲間に出会ったメンバーもいましたが、生物の知識が少ない我々は、もっぱらシジミの分布とその大きさを調査しました。

上のように碁盤^{ごばん}のように調査点があり、指定されたところの生物を調べましたが、予想以上のものすごいドロ干潟で歩くのが大変。足がドロに埋まって立ち往生した中一女子を高校生が引っこ抜いて救助していました。

採集後は広場に戻り、地点ごとに採集したシジミの大きさと数をはかり、記録していきました。



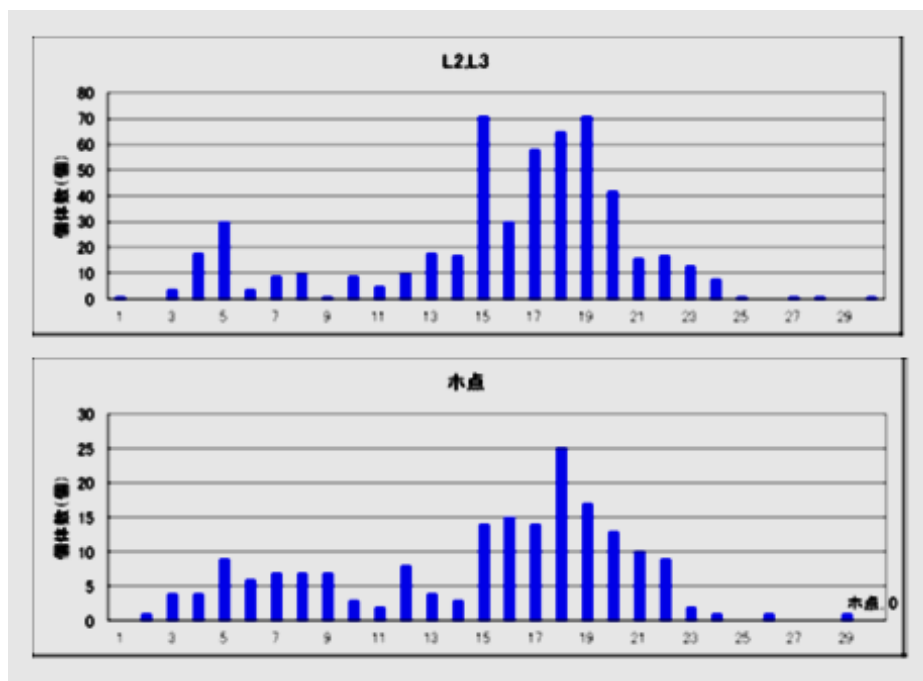
指定された地点ごとに採集した後、分類・調査の方法を教わりました



ノギスを使って、シジミの大きさをミリメートル単位ではかります



東邦大学の風呂田先生にご挨拶を頂きました（先生のTシャツが生徒達の話題に）



後日、調査結果の集計を頂きました。左の図が我々の調査地点のシジミの大きさ（ヨコ軸）と数（タテ軸）をグラフにしたものです。

どちらも、大きく2つの山が見られます。大きい山は親たち、小さい山は今年の子供達かな、などと考えています。

この頃の生物学は、どの大学でもDNAなどの分子が研究の対象になることが多く、今回のように実際に

フィールドに出たの調査は、将来、生物学の分野に進む希望を持つ生徒たちにも良い経験になったと思います。

＜校外学習「アサリ貝剥き実習」浦安市郷土博物館 6／11＞

この日は、浦安及び東京湾での伝統的な漁業であるアサリ漁とアサリの貝剥き技術を勉強するために、浦安市郷土博物館にやってきました。浦安の漁師さんの奥さんたちが持っていた貝剥き技術を伝承している「浦安婦人の会連合会」の皆さんが本日の先生です。

連合会の皆さんに教わりながら貝剥きを行い、浦安伝統の「アサリ飯」を作ります。また、浦安のアサリ漁の歴史を博物館学芸員の島村さんに講義して頂きました。



浦安婦人の会連合会の皆さんに貝剥きを教わります



指先を切り取った軍手を着用し、専用の貝剥きナイフで



中学生も高校男子も、慣れない手つきで



二か所の貝柱を切断します



味付けは、みりんと調理酒、お醤油だけ



炊き上がりを待つ間、アサリ汁も作ります



アサリ以外のだしはいりません



できあがり

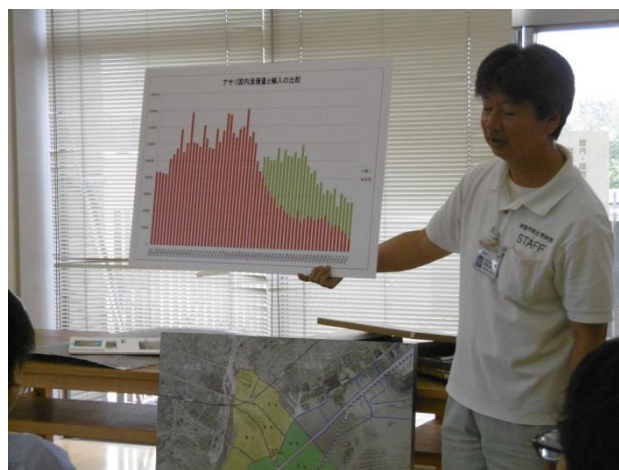


ちゃんと「いただきます」をしましょう

アサリ飯をおいしくいただいた後、学芸員の島村先生から、浦安のアサリ漁の歴史について教えて頂きました。右下写真のグラフは、アサリ漁の収穫量の変化を示したのですが、東京湾の水質の変化からでしょう、どんどんと収穫が減ってきているのが分かりました。



浦安の沖は「沖の百万坪」という浅瀬で



アサリ漁の変化

講義の後には、博物館の館内を見学しました。「沖の百万坪」を再現したジオラマや、東京湾の生物が住む水槽の前で島村先生の説明を頂き、また、アサリ漁に用いた漁具などの使い方も教えて頂きました。

浦安市郷土博物館は、これらだけでなく、昭和30年代の浦安の街を再現した建物や、浦安の自然や歴史を伝える映像なども見ることができます。行ったことのない皆さんは、ぜひ色々と体験してみてください。入場は無料ですよ。

来年の一月には、やはり浦安の伝統産業である海苔作りについて郷土博物館の皆様に教えて頂くことになっています。



「沖の百万坪」を再現したジオラマ



東京湾の生物が住む水槽



アサリ漁に用いた漁具



井戸を使った経験は？



「べか舟」は知っていますよね

以上（文責 サイエンスクラス統括：佐藤勝美）